

# 酒々井町郷土研究会々報

第66号

平成4年10月1日発行  
酒々井町郷土研究会  
編集部

## 値段の歴史(そば)

会田秀雄

そばは中央アジアが原産地といわれております。我が国でそばが栽培されるようになったのは、養老六年(七二二年)元正天皇の頃で米の凶作にそなえてのことだったといえます。その頃は「そばがき」で醬油を少しつけて食べると、そばの香りが高く米の代用食として大変貴重なものであったようです。紐状に打って食べ始めたのは奈良時代からのことで、天正年間にはそば粉をねって糸のようにしたものや切って食べに、これが「そば切り」で、現在そば屋で食べるそばの始まりといわれております。次の表は、幕末から昭和四十四年までのそばの値段であります。又、表の年代にはどのような故事があつたかを参考までに付け加えてみました。

| 値段の歴史 |      | そば(割) |      |
|-------|------|-------|------|
| 十六文   | 幕末   | 一錢二厘  | 明治十年 |
| 五厘    | 明治十年 | 一錢    | 明治十年 |
| 八厘    | 明治十年 | 一錢八厘  | 明治十年 |
| 一錢    | 明治十年 | 二錢    | 明治十年 |
| 二錢    | 明治十年 | 三錢    | 明治十年 |
| 三錢    | 明治十年 | 三錢五厘  | 明治十年 |
| 三錢五厘  | 明治十年 | 四錢    | 明治十年 |
| 四錢    | 明治十年 | 五錢    | 明治十年 |
| 五錢    | 明治十年 | 六錢    | 明治十年 |
| 六錢    | 明治十年 | 七錢    | 明治十年 |
| 七錢    | 明治十年 | 八錢    | 明治十年 |
| 八錢    | 明治十年 | 九錢    | 明治十年 |
| 九錢    | 明治十年 | 十錢    | 明治十年 |
| 十錢    | 明治十年 | 十一錢   | 明治十年 |
| 十一錢   | 明治十年 | 十二錢   | 明治十年 |
| 十二錢   | 明治十年 | 十三錢   | 明治十年 |
| 十三錢   | 明治十年 | 十四錢   | 明治十年 |
| 十四錢   | 明治十年 | 十五錢   | 明治十年 |
| 十五錢   | 明治十年 | 十六錢   | 明治十年 |
| 十六錢   | 明治十年 | 十七錢   | 明治十年 |
| 十七錢   | 明治十年 | 十八錢   | 明治十年 |
| 十八錢   | 明治十年 | 十九錢   | 明治十年 |
| 十九錢   | 明治十年 | 二十錢   | 明治十年 |
| 二十錢   | 明治十年 | 二十一錢  | 明治十年 |
| 二十一錢  | 明治十年 | 二十二錢  | 明治十年 |
| 二十二錢  | 明治十年 | 二十三錢  | 明治十年 |
| 二十三錢  | 明治十年 | 二十四錢  | 明治十年 |
| 二十四錢  | 明治十年 | 二十五錢  | 明治十年 |
| 二十五錢  | 明治十年 | 二十六錢  | 明治十年 |
| 二十六錢  | 明治十年 | 二十七錢  | 明治十年 |
| 二十七錢  | 明治十年 | 二十八錢  | 明治十年 |
| 二十八錢  | 明治十年 | 二十九錢  | 明治十年 |
| 二十九錢  | 明治十年 | 三十錢   | 明治十年 |
| 三十錢   | 明治十年 | 三十一錢  | 明治十年 |
| 三十一錢  | 明治十年 | 三十二錢  | 明治十年 |
| 三十二錢  | 明治十年 | 三十三錢  | 明治十年 |
| 三十三錢  | 明治十年 | 三十四錢  | 明治十年 |
| 三十四錢  | 明治十年 | 三十五錢  | 明治十年 |
| 三十五錢  | 明治十年 | 三十六錢  | 明治十年 |
| 三十六錢  | 明治十年 | 三十七錢  | 明治十年 |
| 三十七錢  | 明治十年 | 三十八錢  | 明治十年 |
| 三十八錢  | 明治十年 | 三十九錢  | 明治十年 |
| 三十九錢  | 明治十年 | 四十錢   | 明治十年 |
| 四十錢   | 明治十年 | 四十一錢  | 明治十年 |
| 四十一錢  | 明治十年 | 四十二錢  | 明治十年 |
| 四十二錢  | 明治十年 | 四十三錢  | 明治十年 |
| 四十三錢  | 明治十年 | 四十四錢  | 明治十年 |
| 四十四錢  | 明治十年 | 四十五錢  | 明治十年 |
| 四十五錢  | 明治十年 | 四十六錢  | 明治十年 |
| 四十六錢  | 明治十年 | 四十七錢  | 明治十年 |
| 四十七錢  | 明治十年 | 四十八錢  | 明治十年 |
| 四十八錢  | 明治十年 | 四十九錢  | 明治十年 |
| 四十九錢  | 明治十年 | 五十錢   | 明治十年 |
| 五十錢   | 明治十年 | 五十一錢  | 明治十年 |
| 五十一錢  | 明治十年 | 五十二錢  | 明治十年 |
| 五十二錢  | 明治十年 | 五十三錢  | 明治十年 |
| 五十三錢  | 明治十年 | 五十四錢  | 明治十年 |
| 五十四錢  | 明治十年 | 五十五錢  | 明治十年 |
| 五十五錢  | 明治十年 | 五十六錢  | 明治十年 |
| 五十六錢  | 明治十年 | 五十七錢  | 明治十年 |
| 五十七錢  | 明治十年 | 五十八錢  | 明治十年 |
| 五十八錢  | 明治十年 | 五十九錢  | 明治十年 |
| 五十九錢  | 明治十年 | 六十錢   | 明治十年 |
| 六十錢   | 明治十年 | 六十一錢  | 明治十年 |
| 六十一錢  | 明治十年 | 六十二錢  | 明治十年 |
| 六十二錢  | 明治十年 | 六十三錢  | 明治十年 |
| 六十三錢  | 明治十年 | 六十四錢  | 明治十年 |
| 六十四錢  | 明治十年 | 六十五錢  | 明治十年 |
| 六十五錢  | 明治十年 | 六十六錢  | 明治十年 |
| 六十六錢  | 明治十年 | 六十七錢  | 明治十年 |
| 六十七錢  | 明治十年 | 六十八錢  | 明治十年 |
| 六十八錢  | 明治十年 | 六十九錢  | 明治十年 |
| 六十九錢  | 明治十年 | 七十錢   | 明治十年 |
| 七十錢   | 明治十年 | 七十一錢  | 明治十年 |
| 七十一錢  | 明治十年 | 七十二錢  | 明治十年 |
| 七十二錢  | 明治十年 | 七十三錢  | 明治十年 |
| 七十三錢  | 明治十年 | 七十四錢  | 明治十年 |
| 七十四錢  | 明治十年 | 七十五錢  | 明治十年 |
| 七十五錢  | 明治十年 | 七十六錢  | 明治十年 |
| 七十六錢  | 明治十年 | 七十七錢  | 明治十年 |
| 七十七錢  | 明治十年 | 七十八錢  | 明治十年 |
| 七十八錢  | 明治十年 | 七十九錢  | 明治十年 |
| 七十九錢  | 明治十年 | 八十錢   | 明治十年 |
| 八十錢   | 明治十年 | 八十一錢  | 明治十年 |
| 八十一錢  | 明治十年 | 八十二錢  | 明治十年 |
| 八十二錢  | 明治十年 | 八十三錢  | 明治十年 |
| 八十三錢  | 明治十年 | 八十四錢  | 明治十年 |
| 八十四錢  | 明治十年 | 八十五錢  | 明治十年 |
| 八十五錢  | 明治十年 | 八十六錢  | 明治十年 |
| 八十六錢  | 明治十年 | 八十七錢  | 明治十年 |
| 八十七錢  | 明治十年 | 八十八錢  | 明治十年 |
| 八十八錢  | 明治十年 | 八十九錢  | 明治十年 |
| 八十九錢  | 明治十年 | 九十錢   | 明治十年 |
| 九十錢   | 明治十年 | 九十一錢  | 明治十年 |
| 九十一錢  | 明治十年 | 九十二錢  | 明治十年 |
| 九十二錢  | 明治十年 | 九十三錢  | 明治十年 |
| 九十三錢  | 明治十年 | 九十四錢  | 明治十年 |
| 九十四錢  | 明治十年 | 九十五錢  | 明治十年 |
| 九十五錢  | 明治十年 | 九十六錢  | 明治十年 |
| 九十六錢  | 明治十年 | 九十七錢  | 明治十年 |
| 九十七錢  | 明治十年 | 九十八錢  | 明治十年 |
| 九十八錢  | 明治十年 | 九十九錢  | 明治十年 |
| 九十九錢  | 明治十年 | 一百錢   | 明治十年 |

### 幕末

慶応四年新政府は徳川十五代将軍慶喜追討令を出す。  
江戸城無血開城。  
間宮林蔵ら樺太探検に出発。  
文久元年アメリカで南北戦争始まる。リンカーン狙撃され死亡五十六歳。

明治元年

五箇条の御誓文出る。

明治十年

東京開成学校と東京医学学校とを合併し東京大学と改称される。博愛社を設立(赤十字の初め)。

明治三十七年

日露戦争開戦。

明治三十九年

乃木将軍凱旋。

明治四十年

足尾銅山で大暴動。軍隊が出動鎮圧。

明治四十四年

社会主義者幸徳秋水ら十三人の刑執行。

大正八年

松井須磨子有楽座で「カルメシ」公演中芸術倶楽部で死す。

大正九年

国際連盟が正式に成立。日本最初のメーデーが上野公園で開催。

昭和十年

美濃部達吉氏の天皇機関説が攻撃される。  
忠犬八千公死す。

昭和十五年

週一回の「節米デー」がきめられる。  
英国首相にチャーチルが就任。

昭和十六年

国民学校令が公布され、小学校が国民学校になる。

昭和二十五年

陸軍「戦陣訓」を示達。  
味噌醬油が六大都市で配給制実施。

昭和二十七年

千円札が発行される。  
日航機「もく星号」三原山に墜落。大辻司郎、三鬼隆ら三十九名遭難。

昭和三十二年

NHK「君の名は」を放送開始。  
白井義男、ダドマリノを破り、日本人初のボクシング世界フライ級チャンピオンを獲得。

昭和三十四年

第五福竜丸被爆。  
日本南極観測隊昭和基地を開設。

昭和三十九年

南極に一年間放置された犬の生存が確認される。

昭和四十二年

町田商店街に米機墜落。  
原爆ドームの大衆募金予定額に達し締めきる。(六千六百万円)

昭和四十四年

航空自衛隊戦闘機三機、島根半島に墜落。



外山信司先生 「戦国期佐倉の人々」を聞く

ずっど昔、と言つても約四百年ほどの昔、「ほら、あの山に千葉の殿さまがお城を構えておられて、山裾にはお茶に使われた井戸があつて、...」と聞かされてきた本佐倉城については、ここ何年か郷土研の郷土史講座でとり上げてきました。おかげで千葉氏のこと、城構えのことなどは少しは判るようになりました。そこで我々、酒々井に住むものにとつて一番身近な「その頃のよう

のこゝを明らかにして下さいました。中世の佐倉は政治型の都市であり、千葉家直属の工級家臣が多く住み、下級武士団や商人・職人などの人々は余り住んでいず、様々な階級や職業を抱えた本来の城下町ではなかつたようです。これは戦国大名として成長しこれなかつた千葉氏の権力構造を反映しているとのこと。お話しの中では、「本土寺過去帳に「龍太夫文書」などに見られる酒々井関係の人々の名前も統柄も数多く紹介されましたが、その中に今も酒々井に住んでおられるお馴染みの名前があつて、「あの方のひい、ひい、...おじいさん、おばあさんかしら」などと想像されて、遠い昔が近いものとなりました。



最近、中世の千葉氏関係の研究が盛んになり、数多くの研究が発表されていきます。千葉氏に大きなかわりを持つ、この酒々井を知るために、郷土研ではこれからの最新の研究成果を学ぶ機会をつくっていききたいと思います。

白石 記

ご苦労さまでした

七月十二日、日曜日は文化財愛護日、夏期のこととて日差しが強くならないうちにと七時に上岩橋貝層に九名、カンカシム口横穴群に九名、伊篠の松並木地区に六名と二十四名の方が、鎌や帚や刈り払い機を持参で参加して下さいました。

春草と違い夏のカヤやシノダケは手強く刈りとりは重労働で参加して下さいました。カンカシム口の草地の広さは機械力なくしては並のことではなく、一生懸命頑張つて下さつた皆さま、本当にご苦労さまでございました。伊篠松並木の清掃もゴミ袋を片手に、空缶やビニールの袋に入れられる食べ物かす等たくさんあり、処分にお手数かけた様子で申し訳ございませんでした。反省点といたしまして、貝層清掃後、続けて古松碑の方に移動清掃、刈りとった草を遠くまで運び処分していただき有難うございました。同じ轍を踏まぬよう改善、楽しい草刈りにいたしましたよう。

野の草花

和紙を用いた原画展案内  
日時 9月30日(水)〜10月4日(日)  
午前10時30分〜午後4時30分  
会場 川村記念美術館ギャラリー  
主催 味村英子さん  
◎主催者の味村さんは佐倉野草会の会員で、和紙のはり絵の画文集を出版され、その一部を展示披露

郷土研日誌 7月~9月

| 月日   | 内容                        | 参加人数 |
|------|---------------------------|------|
| 7月6日 | 名勝探訪 日暮里方面(谷中・入谷・雑司が谷)    | 31名  |
| 11日  | 史談会 「酒々井町の石仏と文化財」         | 15名  |
| 12日  | 史跡文化財愛護活動                 | 24名  |
| 8月9日 | 郷土史講座 外山信司先生 「戦国時代の佐倉の人々」 | 90名  |
| 27日  | 会報委員会                     | 6名   |
|      | 臨時運営委員会                   | 19名  |
| 9月2日 | 見学会小委員会                   | 9名   |
| 11日  | 運営委員会                     | 23名  |
| 12日  | 史談会 「酒々井町の石仏と文化財」(兼「茶屋敷」) | 16名  |
| 24日  | 名勝探訪 麻布大使館めぐり             | 51名  |
| 26日  | 会報校正                      | 8名   |
| 30日  | 会報発送                      | 21名  |

生涯学習フェスティバル参加を!!

11月5日〜11月8日の4日間、中央公民館の会議室に於て、「ミニミニ資料館」を開催します。テーマは「郷土資料館の建設の要望」として、以前に収集されて保存されていた品々を展示します。また、おもしろい「持待」をいたしますので、ご来場下さいますようお願いいたします。また開催中お手伝い出来る方はよろしく願います。

通り過ぎていた駅を

下車してみれば

林 芳子

梅雨空の下、心配した早朝の雨も上がり、先ずまずのお天気での出発。今日、六月七日は日暮里駅下車、ひぐらしの里、谷中探訪です。私にとって、この駅は京成から山手線へのせわしい乗換駅にすぎませんでしたが、下車して歩いてみると、前もって思っていたのとこんなにも違うものかと驚くと共に親しみのある駅、何度でも下車してみたい駅になりました。

谷中は御殿坂を上り切った所から狭い道となり、お寺にお寺が連なっているような寺、寺、寺の町。また迷路のように路地が巡り、車がどうにか通れるような道幅なのに坂が多く、その坂には由緒のある名が付いていて昔が偲ばれるよう。その路地の家々の軒下には資源の有効利用、再利用の種々雑多の容器に草花が植えられ、きちんと並べられていく様は庭があつても手入れが行届かずにいる私には反

省させられたいのですが、行き交う人も途だえ、まるで時間の止まってしまったような、おっとりした町の風情にゆったりとした生活が見えました。お寺を次から次へと参拝し、その中の二寺ではお葬式があり、人々の生活に密着した様子がかがえました。ちよつと早めに日暮里駅で解散。希望者は入谷鬼子母神で開かれていた朝顔市へと回りました。朝顔市は私にとつて初めてで、その混雑振りにはビックリ。前進もままならず迷子にならないようにするのには精一ぱいでゆっくりに観賞も出来ません。それでもスイカやメロンを立ち喰いし元気を付けて神社まで辿り着きました。家内安全を祈り、お誠いを受けてお守り札付きの、色は褪せても絶対枯れない朝顔を一本載せて来ました。何とも楽しい一日でした。



お守り札付きの朝顔を一本載せて来ました。何とも楽しい一日でした。

見学会案内

県内見学会

水更津・大多喜方面

笠森観音(長南町笠森)

笠森寺観音堂(天目京)は国の重要文化財で、坂東三十三観音の三十番の札所。岩の上に四方懸崖奇峰造りという特殊な建造で建てられている。高麗寺(水更津市矢那)

通称 鉢倉観音といわれ、坂東札所の三十番の札所。真言宗豊山派。杉の老樹におわれ、高床の巨刹は、荘厳さを感じさせる。国史館の遺物。大多喜城跡・総南博物館(大多喜町) 昭和五十九(一九七五年)、天守閣(史跡)に沿って上総大多喜城本丸跡(史跡)に天守閣が再建され、県立総南博物館となり、多くの資料が展示されている。 会田記

県外見学会

龍ヶ崎・牛久方面

長禅寺(取手市本町)

臨濟宗妙心寺派の寺。寺伝によると承平元(九三二)年、平将門が、地蔵尊を本尊として祈願所にしたのが始まり。のち寺の住職観覚光普禅師により新四面相馬八十八カ所霊場を開基。外に西園、坂東、秩父の計一〇二体の観音像が安置されている。

間宮林蔵生家(伊那町上青柳)

安永の年に生まれた江戸時代の探検家(一七八〇(一八四四)、伊能忠敬に測量術を学ぶ。樺太が離島であることを見つけた。海峽を間宮海峡と命名。板橋不動院(伊奈町板橋)

真言宗豊山派の寺。清安山願成寺不動院。板橋のお不動さんと親しまれ、

本尊は弘法大師作と伝えられる不動明王。童子立像は国の重文。安産・育児。開運除厄に靈驗められたと信仰される。牛久シャトー(牛久市相田町) わが国洋酒製造の草分け合同酒造の建物で、明治三十(一九〇三)年、神谷伝兵衛が建てたもので、現在は記念資料館となっている。

牛久大仏(牛久市大野町) 現在建仏中で高さ二二〇米という大きな金銅仏である。

龍ヶ崎龍ヶ崎文化には文化物語で有名な、旧暦二月午の日の大祭には榎木市でにぎわう。

徳満寺(利根町布川) 真言宗豊山派の寺。元暦年間(一五七〇(一五七三)年)に祐誠上人が中興した寺で布川子首地蔵尊として有名。寺空の建久五年(一一九四)銘。金銅板に曼荼羅二面は、国指定重文。現在は東京国立博物館に陳列中。

金龍寺(龍ヶ崎市若柴町) 曹洞宗の寺。山号は太田山。元享元年(一三二二)年新田義貞の創建。新田氏時代の菩提寺で、本堂内には新田家の仏壇が設けられ、境内裏手の水立の中には、義貞以下新田氏代々の墓が残っている。 寺堂として国指定の重要文化財「絹本着色十六羅漢像十六幅」がある。 会田記



郷土研行事案内

平成4年10月~12月

|                 | 10月   | 11月  | 12月   |
|-----------------|---|--|---|
| 史談会             | 10日(土) 午後1時30分 (No.3)<br>「酒々井町の石仏と文化財」<br>中央公民館 学習室   | 休ミ   | 12日(土) 午後1時30分 (No.4)<br>「酒々井町の石仏と文化財」<br>中央公民館 学習室   |
| 名勝探訪<br>野草の会    | 8日(木) 京成酒々井駅 8:26発<br>名勝探訪 谷中方面<br>京成酒々井駅 → 日暮里駅 → 竜泉寺 → 観音寺 → 長安寺 → 安立寺 → 全生庵 → 4ヶ寺見学 → 伊勢辰(江戸代紙) → 扇倉 → 4ヶ寺見学 → 宗林寺 → 日暮里 → 京成酒々井駅 (雨天中止)                             | 名勝探訪 11月 休ミ  | 18日(金) 京成酒々井駅 8:38発<br>名勝探訪 白金・目黒方面<br>京成酒々井駅 → 五反田駅 → JR目黒駅 → 20分 東京都立庭園美術館 → 5分 国立自然教育園 → 10分 JR目黒駅(昼食) → 15分 目黒不動 → 15分 JR目黒駅 → 五反田駅 → 京成酒々井駅 (雨天決行) |
| 生涯学習<br>フェスティバル | 11月5日(木)~8日(日) 9:00~16:00 場所 酒々井町中央公民館 会議室<br>「ミニミニ資料館」<br>酒々井町に郷土資料館の建設の要望をテーマにして文化展を開きます。<br>開催期間の4日間、ご来場の皆様に「おしるこ」をサービスします。(10:00~12:00 1日2回)<br>14:00~15:30 1日2回)   |  |   |
| 県内<br>見学会       | 10月15日(木) A班 } 定員各32名<br>16日(金) B班 }<br>申込受付 10月7日(水) 集合場所 中央公民館<br>受付時間 9:00より 出発時間 8時30分<br>受付場所 公民館ロビー<br>費用 1,800円(弁当代も含む。お茶はつきません)<br>キャンセル 10月12日迄・会田秀雄宅まで<br>TEL | 木更津・大多喜方面<br>酒々井(8:30) → 笠森観音(長南町) → 高蔵寺(木更津市)昼食 → 大多喜城跡(総南博物館) → 酒々井(17:00)<br>(雨天決行)<br>受付料番号札は1人1枚のみとします。<br>誠に恐れますが各人お申し込み下さい。                                       |   |
| 県外<br>見学会       | 11月19日(木) 午前8時出発<br>申込受付 10月7日(水)<br>受付時間 9:00より<br>受付場所 公民館ロビー<br>費用 5,500円(昼食料金を含む)<br>キャンセル 11月9日迄・会田秀雄宅まで<br>TEL  | 龍ヶ崎・牛久方面<br>公民館(8:00) → 長禅寺(取手) → 間宮林蔵生家(伊奈) → 板橋不動院(伊奈町) → 牛久シター(昼食・バーベキュー) → 牛久大仏 → 変化稲荷(龍ヶ崎市) → 金龍寺(龍ヶ崎市) → 徳満寺(利根町) → 酒々井(18:00)<br>(美味しい野外バーベキュー、ワイン付、お楽しみに) (雨天決行) |   |

見学案内

名勝探訪

谷中方面 10/8(木) 12/8(金)

七月に実施しました谷中の寺町の散策の続きです。戦災にもあわなかったため、何十年も前の昔がえって来たような風情を残している寺と老舗の町を楽しんで下さい。

長安寺には、画家の狩野芳崖の墓、観音寺の築地塀は幕末の頃、造られたものといわれ谷中の象徴的存在、あとの説明を略しますが、無理のない行程で歩きまわすので、参加下さい。

◎ 白金・目黒方面 10/8(金)

JR 目黒駅を出てまもなく目指すのは東京都庭園美術館。緑の木々のアプローチに導かれて進むと白い館が姿を現します。昭和五十八年に美術館として公開されるまでは、幻のアルテコ館といわれ、白金迎賓館として使用されていた旧朝香宮邸です。フランス留学の経験があり、大変な趣味人であった朝香宮鳩彦王が昭和八年、フランス人アンリ・ラバンを迎えて完成させたもの。いつもは美術館として機能していますが、この十二月十八日から一週間は建物自体を特別公開しています。宮家に縁のない人には宮様の暮しが実感できません。宮家の中かろの方は古き良き時代を思い出されることでしょう。

美術館の隣りは国立自然教育園。この一帯は高松藩主松平家の下屋敷だったところで、こんなに広々とした森が都内に存在していることに驚ろかれます。園内のひょうたん池の水源は地下水で、武蔵野の自然にふれてみまよう。  
JR 目黒駅に戻って昼食をすませたら八のつ日は、目黒の不動さまのご縁日。植木屋さんも並ぶとか。ちよっとおまいりして帰ります。  
白石記



先日、ある講演を聞きまして、ところ「一日にどれにけ多くの人と会話をしたかで随分と楽しい人生が送れる」という話でした。まさに郷土研は一石二鳥で、名勝探訪など頭を使い、足を使い、人と会話をし、お昼にはおいしい?物をいただき、体の新陳代謝は最高です。郷土研に入れば、……すべて解決とまでは行きませんが、時間の許す範囲で参加したいと思っただけです。

十一月には公民館で、生涯学習フェスティバルがあります。郷土研もあれこれ楽しい計画をたてておりますので、会員の皆様には奮ってご参加下さい。

